

## 俳句

霜に泣く子犬の聲に起きつ寝つ

味増甕に蟹の匍ふなり濱時雨

竹藪の蛙の屍をぐれけり

冬の鐘つきこみかねて嶺の雪

小夜時雨廊下のあたり濡りけり

餅搗きにあんつくる子や殊勝ぶり

奥ゆかし神垣もるゝ水の音

胡馬朔風に嘶くころや秋の暮

秋くれぬ月明に衣かたしかん

風蕭々菊一輪に秋更けぬ

満庭の落葉掃くによしなく眺めけり

風をいたみ妻こふ千鳥聲さむし

われもなかん友なし千鳥聲かな

蓮かれて水鳥さむき夕かな

秋も老ひ案山子も老ひて鳥とまる

ばらぐと木の實落ちくる茶店哉

秋雨に絲語聞く夜半のさびしさよ

枯枝に糸爪ふらりと秋暮れぬ

初霽や破傘たてし脊戸の畠

あの山もこの村も今初時雨

梓

氷

川

松 春

露 江

秋

琴

小謠の聲かすかなり冬の月  
離別

君と別れ我物思ふ夜寒かな  
亡き人の聲のやうなり秋の風  
寒月や脊戸の林に狐なく  
足袋白し神の橋越す朝の人  
夕月や妹が肌のいと白き  
武夫にして見まほしき案山子哉  
大雪や追手通の赤合羽  
水晶の珠數を片手や菊の主  
宮嶋にて

鹿鳴くや百八廻廊月白し  
富岡夜泊

怒濤松籟交々夢を破りけり

天草洋秋雨

吳も見えずまた越も見えず今日の雨

## 國家盛衰由教育何如說

玄

道

學之爲道至大、而其書則經史子集、其藝則禮樂射御書數、其德則仁義、其業則農工商醫、  
天下之民、皆由之而生焉、坤輿之廣、蚩氓之夥、言文不一、政教或殊、而道之大本、未嘗不同